

令和3年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立多摩高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 主幹教諭(保健総務部主任兼務)＝事務局長、保健総務部員1名
計2名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭(教務部主任)、主幹教諭(生活指導部主任)、
主幹教諭(進路指導部主任)、主幹教諭(保健総務部主任)、保健総務部員1名 計8名
- (4) 協議委員の構成
PTA会長、同窓会長、近隣中学校長(2名)、近隣自治会長、青梅市教育委員会、
青梅消防署防災担当係長、青梅警察署少年係長、青梅商工会議所地域振興部長
青梅市民センター所長 計10名

2 令和3年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和3年7月6日（火）内部委員8名、協議委員10名
※ 新型コロナウイルス感染症対策による緊急事態宣言等により行事予定が変更されたため、第1回は書面にて開催を行う。
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出
学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題
本校の現状と課題等説明、意見交換
 - 第2回 令和3年11月24日（水）内部委員8名、協議委員7名
授業公開、これまでの教育活動に関する報告
協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議
 - 第3回 令和4年3月24日（木）内部委員8名、協議委員8名
学校評価の報告及び学校運営に関する提言、協議
次年度に向けた方向性の確認
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和3年11月24日（水）内部委員3名、協議委員3名
学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察
今年度の学校評価の実施に向けた検討
 - 第2回 令和4年3月24日（木）内部委員3名、協議委員3名
今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、実施時期の検討
評価報告書（原案）の検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点

「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。

(2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

	対象者	方法	実施期間	回収期限
1	生徒 514名	H Rで概要を説明し実施。	12月1日(水)～ 12月24日(金)	1月14日(金)
2	保護者 514名	H Rで説明用紙を配布し、生徒から保護者へ渡す。	12月1日(水)～ 12月24日(金)	1月14日(金)
3	教職員 37名(管理職を除く)	企画会議及び職員会議で概要を説明し実施。	11月25日(木)～ 12月24日(金)	1月14日(金)
4	① 地域の方々 ② 1中、西中 総計 202名	①自治会長並木様から地域の方々に配布・回収 ②青梅1中、西中の副校長に100部ずつ配布し、回収。	11月25日(木)～ 12月24日(金)	1月14日(金)

アンケート用紙による回収の他、本校で活用している学習クラウドシステムのアンケート機能を利用できる対象者にはこれを活用して回収を行った。

(3) 主な評価項目

- ・ 学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、施設・設備、ライフ・ワーク・バランスの推進(教職員のみ)などの評価項目を、学校実態に合わせて適宜設定する。

(4) 評価結果の概要 (校長や学校全般への意見・提言内容)

	評価項目	肯定的な回答の割合	前回
設問1	学校方針の理解	42.2%の生徒が理解	45%
設問2	充実した学校生活	63.6%の生徒が充実	28%
設問3	家庭学習への取組	33.7%の生徒が実施	64%
設問4	授業規律の理解と取組	72.8%の生徒が理解・実施	23%
設問5	入学後の学力の伸長	53.9%の生徒が該当	新
設問6	卒業後の進路や目標の明確化	55.3%の生徒が該当	44%
設問7	社会ルールや生活マナーの指導	62.2%の生徒が満足	新
設問8	進学・就職などのきめ細かい指導	66.7%の生徒が満足	42%
設問9	キャリアデザインの効果的な指導	56.6%の生徒が満足	43%
設問10	適切な進路情報の提供	64.8%の生徒が満足	45%
設問11	体罰や暴言をなくすための積極的取組	66.9%の生徒が満足	45%

設問 12	いじめ問題についての適切な対応	61.1% の生徒が満足	46%
設問 13	不登校問題についての適切な対応	57.0% の生徒が満足	新
設問 14	心身の悩み相談への適切な対応	61.9% の生徒が満足	38%
設問 15	ボランティア等での地域連携への取組	68.5% の生徒が認識	37%
設問 16	防災教育への取組	67.1% の生徒が認識	39%

(5) 評価結果の分析・考察 [学校及び校長への意見・提言]

最も注目すべきは、前年の調査と比較できる対象者に関して、回答率そのものが昨年度を大きく上回っている点である。これは、調査表の配布・回収の方法などによる変移も考慮すべきではあるものの、結果の是非以前の問題として、本校に対する帰属性の高まりを示すものと捉えてもよいのではないか。

評価結果における個別の内容についての考察としては、生徒による評価の中で、時系列的に継続性のある設問で、結果が低下傾向にあるのは、設問1と設問3のみである。その他については、肯定的な回答の割合が大きく増加していることは好材料である。しかしながら、設問1と設問3は学校にとっては根幹をなす設問であるので、この点については今後の大きな課題と言えよう。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・アンケート結果及び学校運営連絡協議会協議委員の発言から、学校経営全般に対して改善されている傾向にあると認識できた。
- ・特に、キャリア教育を中核とする本校においては、インターンシップ体験事業が地域の商工会議所との連携や求める人材などニーズを具体的にすることができたことは大きな成果であった。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・学校運営連絡協議会協議委員の発言から、防災教育などの連携事業の内容充実のため、早期で詳細な打合せが必要であると共通理解できた。
- ・地域対象のアンケート及び学校運営連絡協議会協議委員の発言から、アンケートの調査項目の改善が必要であると認識できた。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 学校運営

- ・民法改正に伴う主権者教育の充実、地域への教育活動の広報方法の改善

(2) 学習指導

- ・自学自習の習慣化に向けた取組の検討、一人1台端末を活用した授業実践

(3) 特別活動

- ・部活動の活性化、地域と連携した検定試験実施の検討

(4) 生活指導

- ・ 通学路の巡回指導によるマナー改善、生徒が参加する校則の見直し

(5) 進路指導

- ・ インターンシップ体験事業の受入れ先の開拓と内容充実

(6) 健康・安全

- ・ 次の進路先なしの中途退学者をゼロとするためのキャリア教育の充実、個々の状況を把握し適切な手立ての実施

6 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 8名

(2) 「学校がよくなった」と答えた協議委員の人数

そう思う	多少 そう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう 思わない	わからない	無回答
6	2					

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

(1) 参加実績（新型コロナウイルス感染症対策の観点から、参加依頼しなかった。）

- ・ 職員会議 0回
- ・ 企画調整会議 0回

(2) 成果

- ・ 特になし。

8 その他

- ・ 特になし。